

「大田区学習効果測定」結果の分析

平均正答率を見ると、基礎は目標値を下回っているが、活用は目標値を上回っている。

- ・「天気のようにと気温」では、気温の測り方や折れ線グラフの表し方が理解できていない児童がいる。
- ・「物の体積と温度」では、空気・水・金属をあたためたときの体積の変化が理解できていない児童がいる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・実験器具の名称や正しい扱い方など、観察・実験の技能の定着化を図る必要がある。
- ・「電気のはたらき」や「物の体積と温度」について、確かな知識・理解の定着を図ることが課題である。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・具体的な自然の事物や現象にかかわりながら、生活体験を基に予想や仮説を立てる力の育成が課題である。
- ・課題を明確にした上で観察や実験を行い、変化について自ら考えることを意識させることが課題である。
- ・実験や観察を行い、わかったことを自分の言葉でまとめていく力の育成が課題である。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・身のまわりのことから課題を見つけ、進んで調べる方法を考えたり、工夫したりしようとする態度の育成が課題である。特に動物の活動と季節の変化に関心をもつことが課題である。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・観察・実験が正しく行えるように、器具や実験装置等の使い方について、ICT教材で確認し、繰り返し指導することで習熟を図る。
- ・観察・実験をもとにして、学習内容を確認する時間を十分に取し、知識の定着を図る。
- ・視聴覚教材を活用し、理解を深められるようにする。
- ・学習に関連する資料を教室に掲示し、知識の定着を図る。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・生活の中の事象を科学的な見方で考えたり、根拠をもって予想を立て、見通しをもって問題を解決したりする展開を繰り返し経験させる。考える時間をしっかりと確保する。
- ・「変える条件」「変えない条件」に着目させて計画的に実験できるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・身のまわりの自然現象を日常的に意識させ、疑問をもてるよう学校教育全体の中で働きかける。
- ・実際に見られないものも、ICT1教材など、資料などを効果的に用いて、児童が意欲をもって活動に取り組めるようにする。（デジタル教科書、動画教材等）